

就労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	丸玉ウエル	事業所番号	2110102460
住 所	岐阜市加納天神町 4 - 2 7	管理者名	山下さやか
電話番号	058-273-2927	対象年度	令和 5 年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

<活動内容>

【活動場所】丸玉ウエル加納作業所、施設外就労先（丸玉工業第一作業室）

【実施日程】令和 6 年 3 月 2 9 日（金） 13:00～13:15

【参加者数】利用者 20 人、職員 5 人

丸玉工業株式会社取締役山下氏による「職場における呼称」に関する話を聴いて職場における就業時にふさわしい名前の呼び方について学んだ。加納作業所は ZOOM にて参加した。自分が他の利用者や職員、一般企業の社員からどう呼ばれたいか考える時間を持った。自分の考えを職員に聞いてもらって考える姿も見られた。その後、各自が『呼び名確認・同意書』に記入をすることで自分の意思表示をした。用紙を提出するときに職員が利用者の意思を言葉に出して確認をした。また『呼び名』はいつでも変更ができること、思いに変化があったときは申し出ていただくことを周知した。職員、一般企業の社員の呼び方については“さん”を付けること、職位のある場合は職位名（例：山下社長）で呼ぶことを確認した。

<目的>

社会人としてのマナーを身につける

～就業時にふさわしい呼称（呼び名）について考える～

就労場所は、就労事業所の作業場、施設外就労先（一般企業）の作業場がある。利用者は、対職員、対利用者、対一般企業の社員と関わりがある。働くうえでどのように呼び合うことが互いを尊重できるのか、コミュニケーションが円滑にいくのか、考える機会を持ち、一般企業に就職した場合にも通用する力がつくよう学ぶ。

<成果>

自分がどう呼ばれたいか、呼ばれたくない呼び方も含め、自分の意思を表すことが大切であること、また相手の呼び方については相手の思いを尊重することの大切さも合わせて学んだ。当事者どうしが不快に思わない呼び方であっても周りの人が聞いたときに不快になる呼び方は好ましくないことを確認し、理解することができた。呼称については、職場におけるコミュニケーションを円滑にする役割もあり『呼び名』の表面的な形式のみにとらわれず、相手を思う気持ちを添えて呼び合うことの大切さも学んだ。

今回の学習会は利用者、職員ともに職場における呼び名を考える良い機会になった。

<活動の様子>



施設外就労先での聴講風景



加納作業所 ZOOM にて視聴中



加納作業所からの質問に答える講師



利用者からの質問タイム

連携先の企業や事業所等の意見または評価

<意見・評価>

家族や友人ではなく、職場で人と関わりながら仕事をしていく時に、相手をどのように呼ぶことがふさわしいのか考えてもらう良い機会になったと思います。人によって受け取り方が異なるため、自分だけの考えだけではいけないことも知ってもらえたと思います。普段一緒に仕事をしてお互いが慣れている関係、初めての会う場所での関係、立場によっても異なるので、新しい職場や環境でトラブルにならないためのマナーを心得ておくことも大切なスキルの一つです。引き続き、このテーマについてはいろんな場面で取り上げ考えていくといいと思います。

<今後の課題>

連携している弊社側におきましても、各現場の人が同じ意識をもち利用者の方と関わっていかないといけません。声のかけ方、呼び方について同じように意識をもちながら一緒に継続的に考えていくことが必要だと思います

連携先企業（担当者）

丸玉工業株式会社 社長 山下佳孝

利用者からの意見・評価

利用者の感想・意見・評価

「今回の話は大事なことだと思います。今回の勉強をとおして、利用者の皆さんの感想をふまえて改善することがあれば報告もきかせてほしいと思います。」「呼び捨てはダメだと思いました。話は分かりやすかったです。職場はプライベートと呼び方がちがうんだと感ずることができました。」「とても良い話だった。会社では本当は名字で呼んでいますが、丸玉ウエルではときどき（下の）名前と呼ばれたりする時がありますが名前と呼ばれてもいいと思います。」「会社の中では〇〇ちゃん、〇〇君はやめて、年齢に関係なく〇〇さんと呼んだ方がいいと思う。」「呼び名は相手のことを考える。」「話が分かりやすかった。」「呼び名はそのままどおりがいいです。」「貴重な話を聞いて勉強になりました。自分は気にしませんので、好きに呼んでください。」「好きな呼び名でいいと思います。」「挨拶、報告、相談をするときに名前をできるだけちゃんと言えことを忘れないようにする。」

（まとめ）勉強会自体は、良かった。大事な事である。話が分かりやすかった。理解は出来た。という意見であった。反面、就労訓練の現場で自分はどうしていくか、どうしてもらいたいのか、ということにおいては、それぞれの見解があった。